

# 令和5年度 実施事業

# 資料 1

## 1 相談支援

18歳までの子供の心身の発達や療育・福祉サービスに関すること、不登校・情緒不安定・性格等や教育に関する事など、悩みや困ったことについて、専門の相談員が電話や面談等により相談に応じます。

取り組み内容	概要	利用実績(前年度)
電話相談	こども未来センター利用のすべての入口となるのが電話相談です。悩みや不安、今の状況などを伺い、対応の方向性を一緒に考えます。(月～金曜日の 9:00～19:00、土曜日の 9:00～17:00 に受付。日曜・祝日・年末年始を除く)	3,535 件 (3,517 件)
来所相談	センターのさまざまな支援サービスを利用したり、関係機関との連携を検討する場合は、相談員が面談をさせていただき、詳しくお話を伺います。 相談内容を踏まえ、センター内の各種支援や、関係機関との連携などによる支援につないでいきます。	2,534 件 (2,833 件)
訪問・その他	相談支援は原則的に電話、来所で実施しますが、必要な場合に相談員が訪問したり、各種支援会議を主催あるいは参加したりします。	153 件 (47 件)

### (1) 電話相談・来所相談

#### <電話相談・来所相談等実績>

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
相談件数	6,593	7,000	6,661	5,920	5,820	5,413	5,711	6,397	6,222
電話	2,635	3,529	3,727	3,538	3,567	3,568	3,336	3,517	3,535
来所	3,028	2,914	2,625	2,062	2,041	1,813	2,332	2,833	2,534
訪問	136	416	222	281	194	26	37	43	148
メール・その他	794	141	87	39	18	6	6	4	5

## ＜令和5年度相談内容別集計＞

内容	電話	来所	訪問	メール	その他	計
			来所の内数	電話の内数		電話+来所
いじめ	6	3	0	0	0	9
不登校	366	824	2	0	0	1,190
学業・進路	134	110	1	0	0	244
友人関係	15	20	2	0	0	35
家庭・子育て	611	623	1	0	0	1,234
心身の健康・保健	1,055	599	9	3	0	1,654
発達障害等	1,115	386	131	2	0	1,501
非行・不良行為	8	23	0	0	0	31
暴力行為	19	10	0	0	0	29
虐待	41	43	0	0	0	84
体罰	0	1	0	0	0	1
学校・教職員との関係	49	20	0	0	0	69
その他	121	20	2	0	0	141

※兵庫県「ひょうごっ子悩み相談センター」への報告内容

## (2) 保護者支援

### ア 保護者の交流の場の提供

保護者同士が気軽に話せる交流の場として定期的に、暖・暖↑（ダウン症児の保護者の会）の企画や、その他保護者からのご希望に応じて交流の場を設定しています（人数は延べ数）。

R5年度からは「ふらっとb」（入学おたずね会、先輩保護者の話を聞く会、登校に悩みを抱える保護者の会）として開催しています。

#### ＜交流の場の提供の実績＞

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
暖・暖↑	0回 (0人)	1回 (10人)	2回 (13人)	1回 (4人)	0回 (0人)	1回 (2人)	2回 (15人)	4回 (8人)

※令和2年度は2回の実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

### イ みやっこファイル

「みやっこファイル」は発達支援などが必要な方が、適切で一貫した支援や配慮が得られるために作成された、個人情報を集積したものです。“生育歴”や“わが子の紹介”のように保護者が記入するページの他、関係機関の記録や情報を自由にはさんでいく形式にしています。

「みやっこファイルのはじめかた」を開催し、普及に努めています。

#### ＜みやっこファイルかき方教室実績＞

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
かきかた 教室	1回 (2人)	1回 (2人)	1回 (3人)	1回 (4人)	4回 (7人)	2回 (3人)

(※)H29は準備会を実施

## ウ ペアレント・プログラム

子育てに難しさを感じる保護者が子供の行動の理解の仕方を学び、楽しく子育てをする自信を

つけることや子育ての仲間を見つけることを目的として、平成29年度からペアレント・プログラムを行っています。

なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止しました。

### ＜ペアレント・プログラム実績＞ (実人数・延人数) (各グループ7回シリーズ)

こども未来センター	R1	R2	R3	R4	R5
3歳児～未就学児の子供をもつ保護者	10人・55人	—	9人・45人	10人・63人	5人・22人
小学生の子供をもつ保護者	7人・31人	—	8人・51人	6人・40人	5人・31人
計	17人 ・86人	—	17人 ・96人	16人 ・103人	10人 ・53人

## エ 発達障害の学習会

発達特性について理解を深める話の後、具体的な対応方法についてグループで考えます。同じような悩みをもつ保護者同士で意見交換を行い、共感し合える交流の場にもなっています。

平成29年度までは3回シリーズで年に2セットの開催でしたが、平成30年度からは対象児の年齢で区分し、年4回程度開催しています。

令和5年度は6月（就学児）、11月（未就学児）の2回開催しました。

講師はこども未来センター医師等のスタッフで、センター利用後児童の保護者が対象です。

### プログラム内容

- ・こども未来センター診療所長からのお話
- ・家庭での困りごとの具体例と各家庭での対応の紹介
- ・グループでの話し合い
- ・話し合いの共有と明日からできる具体策のまとめ

### ＜発達障害の学習会実績＞

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
学習会	55人	22人	7人	17人	23人	28人	13人

## (3) かおテレビ（視線計測装置）

子供の社会性（人への興味や指さしへの反応等）の発達について、保護者と客観的な結果を共有し、子供の発達の理解を深めてもらうためのツールとして、かおテレビを使用していました。

令和5年度途中で機械が故障した為、実施中止となりました。かおテレビ導入時にはなかった地域支援（母子保健事業との連携等）を開始しており、今後はより地域との連携に力を入れていきます。

### ＜かおテレビ実績＞

(実施回数・延人数)

	R1	R2	R3	R4	R5
塩瀬公民館	3回・14人	2回・5人	2回・0人	2回・3人	1回・9人
山口保健福祉センター	3回・16人	4回・12人	4回・18人	2回・8人	1回・1人
鳴尾中央センター	20回・165人	14回・78人	18回・113人	21回・129人	7回・33人
子育て総合センター	11回・69人	9回・29人	11回・23人	12回・31人	4回・3人
こども未来センター	12回・50人	10回・27人	12回・31人	12回・23人	5回・15人
計	49回・314人	39回・151人	47回・185人	49回・194人	18回・61人

## 2 計画相談支援（本人中心支援計画）

障害福祉サービス等を利用する際に作成することとなっている「本人中心支援計画」（障害児支援利用計画、サービス等利用計画の西宮市における呼称）の作成やモニタリングを行い、本人やご家族の現在の状況や希望などを整理し、課題や方針などについて、支援関係者間での認識共有を図ります。

取り組み内容	概要	利用実績(前年度)
新規作成	障害児が障害児通所支援（児童発達支援・放課後等デイサービスなど）を利用する際に、子供の保護者からの依頼を受け、その子供が最も適切なサービスを受けられるよう、相談支援専門員が関係機関との連絡調整及び共通理解を図るための計画書を作成します。	新規作成件数 9 件 (12 件)
モニタリング	支援開始後、一定期間ごとにモニタリング（継続障害児支援利用援助）を行い、計画の見直しを行います。	モニタリング件数 500 件 (540 件)
支援会議	本人を中心とした計画作成について、本人（保護者）、関係施設（学校園、児童デイ等）の関係者、担当相談支援専門員が協議します。	開催件数 215 件 (245 件)
訪問	相談支援専門員が、本人の自宅を訪問して日常生活全般の状況を伺い、課題等の把握を行います。	訪問件数 369 件 (120 件)

### <計画相談支援実績>

(単位:件)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
新規作成	26	38	40	20	27	12	9
モニタリング	329	439	505	534	535	540	500

### 3 診察・小児リハビリテーション

#### (1) 診療所

こども未来センター診療所は、センター内における医療的な側面からの支援を行うのが主な業務です。診療所では、単に診療を行うだけでなく、本人の日常生活の充実や向上につなげていくことを主眼とした取り組みを行っています。

診療所内で、さまざまな小児リハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）や発達検査などを行うだけでなく、センター内の関係部門や学校・幼稚園・保育所等と連携した、各種の支援などにも力を入れ、センターの基本理念である「こども自身の自分らしい豊かな人生を実現する」ことに向けた総合的な支援を目指しています。

増加する発達面での診察希望者に対応し、早期支援実現のために、令和3年4月より地域医療機関との連携を開始するとともに、診察申込には医療機関、健診担当医師、所属の学校園所のいずれかからの紹介を必要とする紹介制を導入しました。

取り組み内容	概要	利用実績(前年度)	
診察 (小児科・整形外科・児童精神科)	18歳までの身体・知的・発達に関する診療を行います。	利用者数 延利用件数	3,032人 (2,944人) 6,544件 (6,438件)
小児リハビリテーション (理学療法・作業療法・言語聴覚療法)	医師の処方に基づき、各種の小児リハビリテーションを実施します。	延利用件数	13,279件 (12,473件)
心理療法・発達検査	医師の処方に基づき、心理士がカウンセリングや発達検査を行います。	延利用件数	825件 (905件)
わかば園園児の健康管理・療育支援	わかば園(通園療育部門)園児の健康管理のほか、療育支援を行います。		
各種の技術指導等 (障害児等療育支援事業)	必要に応じて、利用者や学校園等に対する技術指導などを行います。		
関係医療機関との連携	市内で発達障害専門診療を行う医療機関(Aチーム)、および発達障害の相談・助言が可能な一般小児科(Bチーム)との連携を中心に紹介等を行います。		

#### ① 診察実績

(単位:人)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
外来診療者数	2,115	2,685	2,931	3,037	2,980	2,952	2,944	3,032
外来初診者数	650	789	607	537	445	386	421	434
外来再診者数	1,465	1,896	2,324	2,500	2,535	2,566	2,523	2,598

## ②初診者数の状況

(単位:人)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
初診数	607	537	445	386	421	434
運動発達障害(①+②)	71	78	52	43	41	49
①脳性麻痺 うち低体重出生(内数)	6 (2)	5 (2)	2 (1)	1 (0)	2 (1)	2 (1)
②その他の運動障害 うち低体重出生(内数)	65 (16)	73 (9)	50 (11)	42 (4)	39 (11)	47 (7)
精神発達障害(③+④+⑤)	418	356	341	279	335	331
③知的障害	52	43	71	39	39	32
④自閉性障害	262	228	242	203	243	253
⑤LD/ADHD等	104	85	28	37	53	46
言語性発達遅滞	82	75	29	38	25	29
その他	36	28	23	26	20	25

## <年齢別内訳>

(単位:人)

	R1	R2	R3	R4	R5
0歳代	32	26	17	14	18
1歳代	38	20	23	25	27
2歳代	67	51	55	36	25
3歳代	70	62	64	64	66
4歳代	51	72	55	61	62
5歳代	47	39	32	34	40
6歳代	33	36	28	24	27
7歳代	40	35	29	37	53
8歳代	36	39	16	29	30
9歳代	24	16	24	22	26
10歳代	22	21	14	20	17
11歳代	25	15	11	20	13
12歳代	18	8	6	13	15
13歳代	15	3	4	9	5
14歳代	13	2	3	9	6
15歳代	4	0	1	3	1
16歳代	2	0	4	1	3
17歳代	0	0	0	0	0
18歳代	0	0	0	0	0
計	537	445	386	421	434

## <紹介元内訳>

(単位:人)

紹介元	R1	R2	R3	R4	R5
保健福祉センター (地域保健)	131	81	63	68	84
医療機関(病院・開業医)	61	89	131	138	105
紹介以外(利用者 関係・直接)	156	122	74	0	0
療育機関 (転入ケース含む)	15	14	12	16	19
小学校・中学校	74	66	53	130	139
幼稚園・保育所	59	55	42	69	87
子ども家庭センター	6	2	1	-	-
市役所	8	6	1	-	-
子育て総合センター	12	2	7	-	-
総合教育センター	0	0	1	-	-
その他	15	8	1	-	-
計	537	445	386	421	434

・R3.4月から診察申し込みが紹介制となり、医療機関、乳幼児健診担当医師、所属学校園所のいずれかの紹介が必要となりました。

・R3年度の初診の約2/3がR2年度中の申込のため、R3年度は紹介制と紹介制以前の申し込みが混在しています。

③リハビリ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）利用者数推移

(単位:人)

	R1			R2			R3			R4			R5		
	PT	OT	ST	PT	PT	OT	ST	OT	ST	PT	OT	ST	PT	OT	ST
脳性麻痺	99	78	46	87	67	44	84	62	44	82	54	42	77	49	37
中枢神経疾患 後遺症	19	4	10	17	5	7	17	3	5	14	3	7	14	5	7
先天性脳形成 不全	4	3	4	2	2	4	2	2	4	3	2	3	3	2	5
難治性てんか ん	6	4	1	5	2	0	6	2	2	8	2	2	8	2	1
染色体遺伝子 疾患	59	56	63	55	51	61	50	48	55	55	45	56	53	50	57
神経筋疾患	8	9	3	9	8	3	8	8	3	10	6	3	11	6	3
筋・骨格・運動 器疾患	13	7	1	10	7	2	15	7	2	12	7	2	16	5	2
精神運動発達 遅滞	12	22	17	11	18	17	10	21	17	9	16	12	9	18	15
運動発達遅滞	106	43	36	89	45	38	88	37	33	78	38	34	87	43	39
その他の運動 障害	4	3	2	2	3	2	1	1	1	1	3	2	2	2	3
協調運動障害	7	43	7	7	31	7	4	25	7	4	18	4	4	14	3
自閉症スペクト ラム障害(ASD)	9	553	597	5	486	555	4	496	557	4	487	554	4	503	546
学習障害(L D)	1	35	19	1	26	20	0	20	16	0	21	16	0	20	9
注意欠陥・多動 性障害(ADH D)	0	45	21	0	51	18	0	46	16	0	55	12	0	50	13
知的障害	4	101	118	3	87	112	2	77	121	2	71	115	2	76	105
DAMP 症候群	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
その他	27	48	180	34	48	144	24	47	152	13	39	108	9	36	127
計	378	1,054	1,126	337	937	1,035	315	902	1,036	295	867	972	299	881	972

## (2) 理学療法 (PT : Physical Therapy)

小児理学療法は、先天性または後天性の疾患や外傷などによって、運動発達の遅れや運動機能に困難さがある子供に対し、運動機能の維持・改善を目的に、主に運動などの手段を用いて指導、援助を行います。運動機能の改善や生活環境への支援を行うことで、日常生活活動(ADL)の改善を図り、生活の質(QOL)の向上を目指します。

区分	対象	概要	利用実績(前年度)
理学療法	何らかの原因で運動発達の遅れや運動機能に困難さがある乳幼児から18歳までの児童	子供の持っている潜在能力や発達の力を育て、様々な日常生活の活動性や自立度の向上に取り組み、子供(とその家族)が住んでいる地域の中で現在や将来にわたり、少しでも心身ともに健やかに、豊かな生活が送れるように支援します。	利用者数 299人 (295人) 延利用件数 4,431件 (4,081件)

### < P T 外来実人数 (令和5年度) >

(単位:人)

年齢 診断名	0 1 2 3 4 5 6						7 8 9 10 11 12						13 14 15			16 17 18			合計	
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小7	小8	小9	小10	小11	小12	中1	中2	中3	高1	高2	高3		
脳性麻痺	0	2	3	1	2	3	4	2	2	8	5	5	4	5	6	8	2	8	7	77
中枢神経疾患後遺症	0	1	0	0	0	1	3	2	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	14
先天性脳形成不全	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
難治性てんかん	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	8
染色体遺伝子疾患	0	3	6	4	6	4	3	2	2	3	4	5	0	3	5	0	1	1	1	53
神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	1	2	2	0	0	11
筋・骨格・運動器疾患	0	1	0	0	0	5	0	2	3	0	1	1	0	0	2	0	0	1	0	16
精神運動発達遅滞	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	1	1	9
運動発達遅滞	0	27	20	7	9	7	4	4	2	2	1	1	2	0	1	0	0	0	0	87
その他の運動障害	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
協調運動障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	4
自閉症スペクトラム障害(ASD)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
学習障害(LD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
注意欠陥・多動性障害(ADHD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
DAMP症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	1	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	9
計	0	36	30	16	21	23	14	15	13	14	17	15	10	15	17	12	8	14	9	299

### < 補装具・福祉用具(車いす、座位保持装置など)の製作支援・相談 >

補装具・福祉用具を作製する際には、理学療法士が子供の特性等を配慮して製作支援、相談に応じています。

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
製作支援・相談	107	144	131	112	123	79	129

### (3) 作業療法 (OT : Occupational Therapy)

さまざまな作業活動(遊び、学習、日常の活動など)を用いて、生活動作、運動、学習、人と交流する力の発達を支援します。個別で行う作業療法のほかに、2～3人で行う小集団の作業療法も実施しています。

区分	対象	概要	利用実績(前年度)
作業療法	運動、遊び、日常生活動作、学習、社会生活などで、発達のつまずきが生じている乳幼児から18歳までの児童	<p>子供一人ひとりの状態に合わせた作業活動(遊び、学習、日常生活動作など)を用いて、成功体験を積み重ねながら、生活動作、運動、学習、人と交流する力の発達を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆遊び 感覚運動遊び(遊具など)、構成遊び(ブロック、パズルなど)、社会的遊び(ごっこ遊びなど)を通して、運動・情緒・社会性の発達を支援します。</li> <li>◆学習 姿勢を保つ、道具を使う、複数の手順を組み立てるなどを通して、学習や学校生活の土台となる力を育みます。</li> <li>◆日常生活動作 食事、排泄、着替え、入浴などの生活動作が、家庭や学校園所で安定して行えるように支援します。</li> </ul>	<p>利用者数 881人 (867人)</p> <p>延利用件数 4,418件 (4,301件)</p>

### <OT外来実人数(令和5年度)>

(単位:人)

診断名	年齢																		計	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		18
	小						中						高							
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
脳性麻痺	0	1	1	0	2	4	3	5	2	8	5	2	3	2	3	1	1	3	3	49
中枢神経疾患後遺症	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
先天性脳形成不全	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
難治性てんかん	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
染色体遺伝子疾患	0	0	1	1	2	7	3	4	2	6	5	7	2	2	3	1	2	2	0	50
神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	1	1	0	0	0	6
筋・骨格・運動器疾患	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	5
精神運動発達遅滞	0	0	0	1	2	3	4	1	0	0	1	1	0	0	1	2	1	1	0	18
運動発達遅滞	0	0	1	4	7	4	4	9	5	4	2	1	1	1	0	0	0	0	0	43
その他の運動障害	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
協調運動障害	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2	2	1	1	0	0	0	1	0	14
自閉症スペクトラム障害(ASD)	0	0	2	7	31	54	84	70	58	47	36	26	32	13	11	14	4	7	7	503
学習障害(LD)	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	3	2	2	1	2	2	0	1	0	20
注意欠陥・多動性障害(ADHD)	0	0	0	0	0	4	5	2	5	5	12	7	2	2	2	3	0	1	0	50
知的障害	0	0	0	1	7	9	9	19	6	6	6	3	5	2	0	1	0	1	1	76
DAMP症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	2	4	7	6	3	4	1	2	1	1	2	1	0	1	1	0	36
計	0	1	6	17	55	94	122	117	90	83	75	52	51	27	25	25	9	21	11	881

#### (4) 言語聴覚療法 (ST : Speech-Language-Hearing Therapy)

言語聴覚療法とは、発声発語機能、言語機能、聴覚機能、高次脳機能、摂食・嚥下機能、コミュニケーション機能に障害のある人などに対して、言語聴覚士が検査、訓練および助言、指導その他の援助などの専門的関わりによって、対象者の機能の獲得や維持・向上を図り、生活の質の向上を支援します。

区分	対象	概要	利用実績(前年度)
言語聴覚療法	音声や言語、嚥下・摂食等に遅れや問題のある乳幼児から18歳までの児童	<p>子供の発達段階に応じて、遊びを取り入れながら個々の目標とする課題に取り組み、保護者にもその目的を説明し、家庭での具体的な関わりにつながるよう指導します。また、センター内の他職種との連携だけでなく、必要に応じ保護者の承諾を得て子供が所属する関係機関の先生方とも連携をとりながら支援します。</p> <p>◆コミュニケーションの問題 個々の発達段階に応じた遊びを通して、コミュニケーションの力を身につけられるよう支援します。 ことばの理解を深め、人と相互にやりとりする力を身につけていけるよう支援します。 また保護者にも家庭での具体的なことばかけや対応方法について指導、支援します。</p> <p>◆摂食や嚥下の問題 摂食・嚥下機能を向上させることや、安全に効率よく食事ができることを目的に支援します。保護者に対しても適切な食形態や食事介助の方法を指導します。</p>	<p>利用者数 972人 (972人)</p> <p>延利用件数 4,430件 (4,091件)</p>
集団言語療法	学齢児	<p>小集団の中で友達との関わり方や、集団生活に必要なコミュニケーションスキルの学習を促します。友達とのやりとりの経験を積み、自信をつけ集団生活につながります。 また、保護者にも支援方法を伝え、社会生活に活かしていけるように学校と連携をはかります。</p>	<p>1グループ(1グループ) 計4名(4名) 延11回(11回)</p>

<ST外来実人数（令和5年度）>

（単位：人）

診断名	年齢																		計	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		18
							小	小	小	小	小	小	中	中	中	高	高	高		
							1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
脳性麻痺	0	0	1	0	0	3	1	3	1	4	5	3	2	3	3	0	1	5	2	37
中枢神経疾患後遺症	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	7
先天性脳形成不全	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5
難治性てんかん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
染色体遺伝子疾患	0	1	5	1	4	6	4	5	1	3	5	7	0	5	3	5	1	1	0	57
神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
筋・骨格・運動器疾患	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
精神運動発達遅滞	0	0	2	1	1	2	2	0	2	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	15
運動発達遅滞	0	3	6	2	3	7	4	5	3	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	39
その他の運動障害	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
協調運動障害	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
自閉症スペクトラム障害(ASD)	0	0	3	16	44	85	84	84	52	47	42	19	18	19	11	7	7	5	3	546
学習障害(LD)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0	2	0	1	0	0	0	0	9
注意欠陥・多動性障害(ADHD)	0	0	0	0	1	4	1	0	1	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	13
知的障害	0	0	0	5	11	11	9	18	11	16	7	3	5	2	4	1	0	1	1	105
DAMP症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	3	8	19	11	20	14	20	15	6	6	2	1	0	0	0	0	0	127
計	0	6	21	34	83	130	131	131	93	100	72	39	34	31	24	14	11	12	6	972

(5) 心理療法・発達検査

心理士が、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて、問題解決のサポートを行います。

取り組み内容	概要	利用実績(前年度)	
心理療法	<p>子供を対象として、「遊戯療法」「カウンセリング」を行い、心の安定に努めています。</p> <p>現在、新規ケースは受け付けておらず、継続ケースのみ実施しています。</p>	利用者数	7人 (12人)
		延べ利用件数	65件 (89件)
発達検査	<p>子供の発達状況や発達のバランスを客観的に知るために必要に応じて行います。診断の際に利用したり、今後の療育方針を立てる上でも役立てていきます。</p>	利用者数	757人 (814人)
		延べ利用件数	760件 (816件)

<心理療法・発達検査実績>

(単位：件)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
心理療法	305	245	180	69	112	89	65
発達検査	1,071	947	874	751	795	816	760

### <一時預かり事業>

より集中しやすい環境で、こども未来センターを利用してもらうことを目的に、リハビリ・相談等対象児童のきょうだいの一時預かりを業務委託により行っています。

【対象】 生後8か月以上の就学前児童      【費用】 1時間 300円

【委託先】 社会福祉法人 桜谷福祉会

	R1	R2	R3	R4	R5
新規登録者数	109人	86人	85人	81人	68人
利用実績(キャンセルは含まない)	1,838 枠	1,122 枠	1,077 枠	977 枠	1,137 枠
60分(1枠)	1,628 件	982 件	941 件	847 件	1,063 件
120分(2枠)	105 件	70 件	68 件	65 件	37 件
(参考)キャンセル数	418 件	263 件	240 件	282 件	314 件

## 4 通所支援

就学前の肢体不自由児、知的・発達障害児に対して、保育士による療育を行っています。子供の日常生活を大切に、子供と保護者を支えること、親子で遊ぶことが楽しいと思えるような豊かな親子関係を大切にしています。

取り組み内容	対象	概要	利用実績(前年度)
通園療育 「わかば園」	2歳児(4月1日で満1歳の子供)から就学前の肢体不自由児、知的・発達障害児	<p>基本的な生活習慣を大切に、一人一人に応じた安定した身体づくりをしていきます。</p> <p>安心して遊べる環境をつくり、さまざまな遊びの提供をしていき、親子で楽しく遊ぶ中で、豊かな親子関係を築いていきます。</p> <p>一人一人の持っている力を生活や遊びの具体的な場で発揮出来るよう援助していき、毎日の生活がより広がり、充実したものになるよう、いろいろな経験を積み重ねていきます。</p>	<p>在籍者数 31人 (35人)</p> <p>延保育回数 3,139回 (2,503回)</p>

### (1) 通園療育(福祉型児童発達支援センター「わかば園」)

#### ア わかば園の概要

2歳児(4月1日で満1歳の子供)から就学前の肢体不自由児、知的・発達障害児に対して、年齢や個々の状態に合わせた集団保育、食事指導、各種相談(育児相談、栄養相談、進路相談など)その他、近隣の保育所児との交流保育、季節ごとの行事なども行います。

日々の保育場面にこども未来センター診療所のセラピストが定期的に参加し、快適な環境設定やご家族の情報などを、随時、各部門が情報を共有することで、支援の充実に向けた連携を図っています。

わかば園では、保護者の方に具体的な療育・育児方法を身につけていただくため、親子一緒に参加していただくこととしています(親子通園)。

#### <親子通園のキーワード>

たのしむ	親子で一緒に遊んで、楽しさを共感しましょう
つながる	いろいろな人と出会って、つながりを豊かにしていきましょう
まなぶ	他の親子や先輩からも、たくさん学びましょう
きづく	子供の姿や移り変わりから、うれしい気づきを見つけましょう

#### イ わかば園のクラス編成と保育の流れ(令和6年4月1日現在)

通園対象			組	保育日数 (予定)	通園日				
障害種別	年齢	在籍人数			月	火	水	木	金
肢体不自由	2歳	2	ゆき	72		○			9月より
	3歳	3	はな	90		○			○
	4歳	1	つき	134		○		○	○
	5歳	4	ほし	135		○		○	○
知的・発達	2歳	7	うさぎ	128	○	○		○	
	3歳	7	ぞう	173	○	○	○		○
計		24		732					

時間	活動
9:40	順次タクシー登園、診察、検温
	出席ノート、身辺整理
10:00	集まり、名前呼び、歌、ふれあい遊び
	各クラスに応じた保育
	季節の遊び、製作
	身体を使った遊び、感触遊び
11:50	給食
12:35	ゆったり保育(保護者が食事をする間の分離保育)
13:00	各クラスに応じた保育
13:50	おかえり
14:00	タクシー降園

※保育は1限 50 分、一日3限で実施しています。

1 限目 (10:00 ～10:50)

2 限目 (11:00 ～11:50)

3 限目 (13:00 ～13:50)

※毎週木曜日 年長、年中クラスで音楽療法(どれみクラブ)を実施。

## ウ 年間行事・給食・保護者支援

### ①年間行事

月	行事
4 月	療育説明会・一学期開始・クラス懇談会
5 月	クラス進路勉強会(クラス毎)・手洗い講習会
6 月	歯科検診・保護者参加デー・救急法講習
7 月	療育公開日・支援学校見学(4歳児親子) プール開き・夏のお楽しみ会
8 月	家族参加デー・一学期終了・夏休み・二学期開始
9 月	
10 月	わかばっこ広場・遠足(肢体)・園外保育(発達)
11 月	療育公開日
12 月	クリスマス会・二学期終了・冬休み
1 月	三学期開始
2 月	
3 月	卒園式

※誕生会はクラス毎に実施

※その他開催予定

公立保育所交流 など

## ②給食

わかば園の給食は公立保育所の献立に基づいて実施するとともに、衛生管理を徹底し、安全な給食提供が出来るよう努めています。

また、園児の摂食機能に応じた食事形態（普通食、刻み食、ミキサー食）やアレルギー食、ケトン食、注入食などの特別食にも対応した給食提供や偏食改善のための調理方法の工夫やクッキング保育を行います。必要に応じて、栄養指導を行います。

### <園児の食事形態>

ごはん		おかず		特別食	
普通	23	普通	22	アレルギー普通食 (卵)	3
お粥	1	刻み食	1	経管栄養 (エネーボ)	3
ミキサー粥	1	細刻み食	1		
		ミキサー食	1		
計	25	計	25	計	6

## ③保護者支援

### 【クラス懇談・個人懇談】

保護者一人一人のニーズや評価会議、本人中心支援会議等で検討した援助内容をもとに懇談を行います。

学期に一回のクラス懇談に加え、必要に応じて随時個人懇談等を行います。

### 【保護者研修】

公立の幼稚園・特別支援学校・北山学園などの見学、卒園児の保護者による子育てや進路についての経験談を聞く機会を設けています。

### 【家族参観】

保護者及び家族に日頃の療育内容について知ってもらい、理解を深めてもらうと共にきょうだい支援も行っています。

## エ 通園方法

わかば園への通園方法は、原則として利用者1～2組を1グループとして、各家庭と園をタクシーで送迎します（グループの組み合わせは園が指定）。

また、医療的ケアの必要な園児とその保護者の通園手段の確保のため、一定の条件のもと福祉タクシーでの送迎を実施しています。

### 【分離保育プログラム】

子供たちの自立・自律に向けて、就学1年前の利用児（5歳児）を対象に、分離保育で療育を実施しています。

### 【並行通園プログラム】

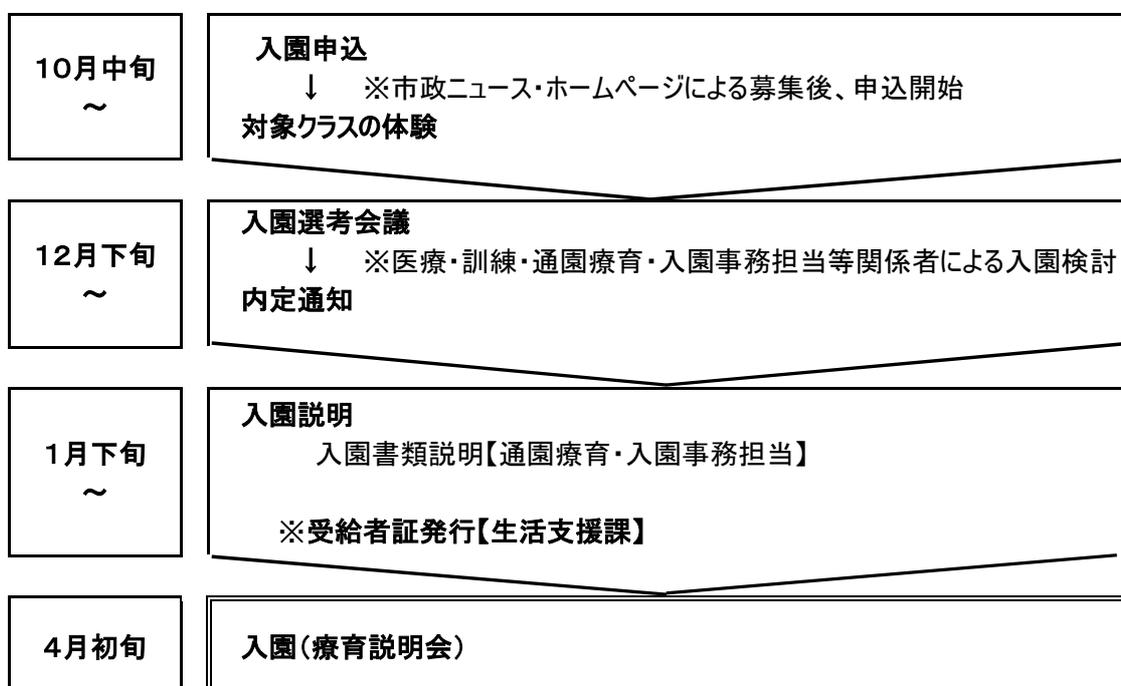
子供が地域の保育所や幼稚園を利用しながら、わかば園通園療育を受ける並行通園プログラムを実施しています。

### 【介助通園制度】

園児の保護者が病気、出産などのために親子通園が困難な場合、センター職員が介助を行うことにより、療育を継続することのできる制度があります。

場合	期間
保護者が病気、家族の介護のため2週間以上通園が困難になった場合	上限3か月
保護者が妊娠のため通園が困難となった場合	産前8週間、産後12週間 多胎の場合 産前14週間 32週未満の早産の場合は、予定日から12週まで

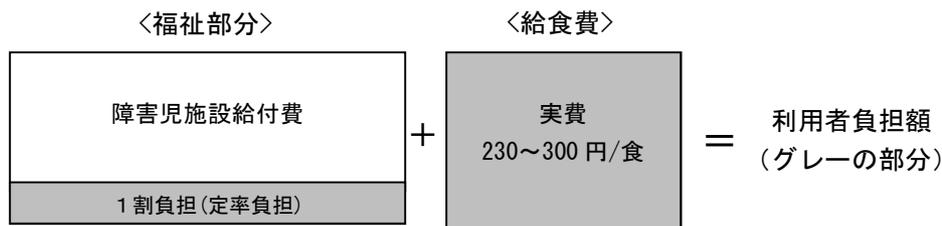
### オ 入園の流れ



## カ 利用料・利用者負担

### ①利用料のしくみ

利用者負担額は、福祉部分の各定率負担分と給食費（実費）の合計。



- \* 1日の福祉部分の利用料は、タクシー通園制度により配車したタクシーに乗車した時点で支払い義務が発生し、各自で登園（自力登園）される方については、登園した時点で支払い義務が発生する。
- \* 食費は、当日午前9時30分までに連絡がなければ、キャンセル料（実費分）を徴収する。
- \* 障害児施設給付費は、保護者に代わり代理請求、代理受領する。

(月額)	通園使用料	給食費(1食)	所得区分の認定方法
生活保護	0円	230円	生活保護受給世帯
低所得	0円	230円	市町村民税非課税世帯に属する者である場合
所得1	4,600円	250円	市町村民税課税世帯に属する者であって、課税世帯員の所得割合計額が28万円未満の場合
所得2	37,200円	300円	市町村民税課税世帯に属する者であって、課税世帯員の所得割合計額が28万円以上の場合

### ②利用者負担額の支払方法

利用者負担額は、1ヶ月ごとに口座振替により徴収する。

### ③利用者負担の軽減措置等

- ・「通園療育」の月毎の利用者負担の額（福祉部分）は、児童福祉法により上限が定められている。
- ・「通園療育」の利用状況により、当施設への月々の利用者負担は変わる。
- ・福祉部分には多子軽減措置があり、幼稚園・保育所又は障害児通所支援を利用する就学前の児童が同一世帯に2人以上いる場合に、第2子以降の利用者負担額の軽減を行う制度。  
(利用者負担額 第2子：半額 第3子以降：0円)
- ・福祉部分の実費負担に対し、毎月の利用者負担額から9,600円を控除した額を補助する制度がある。
- ・児童デイ等を利用した場合、福祉部分について、利用者負担上限額管理が適用される場合があり、利用する場合は、要連絡。
- ・世帯内で介護・福祉サービスを複数受けている場合、高額障害児施設給付費の制度がある。
- ・「幼児教育・保育の無償化」実施により、満3歳～満5歳児については、通園使用料の自己負担はない(給食費等の実費負担分は必要)。

### ④サービスの利用に関する留意事項

#### 〈受給者証〉

- ・入園時には必ず受給者証「障害児施設受給者証」を提示し、記載事項等に変更があった場合は要連絡。

#### 〈児童発達支援提供実績記録票〉

- ・利用者は、当日提供された通園内容を記載した『児童発達支援提供実績記録票』の内容を確認、サインする。

**<わかば園の事業実績（途中入園児、退園児含む）>**

**①通園児の在籍者数**

(単位:人)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
通園在籍者数(人)	32	38	38	35	34	42	35	34	35	31
保育回数(延べ)	3,603	3,798	3,682	3,075	3,182	2,761	2,166	2,220	2,503	3,139
保育のみ	3,399	3,569	3,541	2,969	3,037	2,626	2,039	2,127	2,312	2,961
保育・音楽療法	204	220	141	106	145	135	127	93	191	178

**②通園児の疾患別表**

(単位:人)

疾患区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
脳性まひ	8	10	11	9	6	10	7	7	6	4
中枢神経疾患後遺症	2	2	0	0	1	1	2	3	3	4
精神運動発達遅滞	4	5	3	9	6	4	5	8	6	4
染色体・遺伝子異常	10	11	10	12	9	10	8	3	4	3
多奇形症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
難治性てんかん	1	2	4	1	2	2	0	0	1	1
末梢神経・筋疾患	1	0	1	0	0	1	2	2	2	1
二分脊椎	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
その他(自閉症スペクトラム等)	6	8	9	4	9	13	11	11	12	14
計	32	38	38	35	34	42	35	34	35	31

**③通園児の移動能力別**

(単位:人)

移動能力別	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
移動不可	8	5	6	6	6	3	5	4
寝返り	3	4	1	6	2	2	1	1
這う	3	1	0	4	2	3	1	1
つたい歩き	1	1	0	1	0	0	0	0
器具による歩行	4	4	6	4	5	5	6	3
独歩	19	20	21	21	20	21	22	22
計	38	35	34	42	35	34	35	31

**④通園児の言語能力別**

(単位:人)

言語能力別	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
発声なし	2	1	1	2	1	2	0	0
発声のみ	7	14	10	11	12	9	15	7
喃語	12	5	11	8	1	4	2	2
単語	5	3	5	7	4	4	7	8
二語文	5	3	3	7	12	5	4	7
会話	7	9	4	7	5	10	7	7
計	38	35	34	42	35	34	35	31

⑤通園児の日常生活能力別

(単位:人)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
食事	38	38	34	42	35	34	35	31
全介助	18	13	18	16	14	13	11	7
一部介助	17	22	13	22	14	14	21	15
自立	3	3	3	4	7	7	3	9
着脱衣	38	38	34	42	35	34	35	31
全介助	26	13	17	18	19	15	13	11
一部介助	11	25	15	21	16	15	22	16
自立	1	0	2	3	0	4	0	4
排泄	38	38	34	42	35	34	35	31
全介助予告無	22	22	24	22	16	17	16	17
全介助予告有	1	1	6	5	4	1	1	1
一部介助	13	15	1	7	10	11	13	4
自立	2	0	3	8	5	5	5	9

⑥卒退園児の就園・就学先

(単位:人)

進路	R1		R2		R3		R4		R5	
特別支援学校	西宮養護	3	西宮養護	1			西宮支援	3	西宮支援	3
	芦屋特別	1	芦屋特別	1			むこがわ	1		
その他の施設等	北山学園	7	北山学園	6	北山学園	7	北山学園	4		
普通校	甲東小	1	生瀬小	1			大社	1	上ヶ原小	1
	高木北小	1	用海小	1					今津小	1
	甲子園浜小	1	津門小	1						
			安井小	1						
公立保育所							芦原むつみ	1		
							鳴尾北	1		
私立保育所										
	大社	1	春風	1	高木	2	高木	1	大社	2
	あおぞら	1	鳴尾東	1	鳴尾東	1	鳴尾東	1	鳴尾東	1
公立幼稚園			あおぞら	1			大社	1	越木岩	1
									春風	1
									門戸	1
			門戸	2			夙川	2	浜脇	1
	こばと	1	こばと	1	こばと	1			こばと	1
	松秀	1	甲子園二葉	1	甲子園二葉	1	甲子園二葉	1	くるみ	1
							むこがわ	1	東山ぼぼ	
	西宮甲武	1	関西学院	2	段上	1			こども園分園	1
私立幼稚園	甲子園二葉	2			芦大附属	1			浜甲子園健康	1
	関西学院	1			武庫川女子大学付属	1				
	一里山	1			神戸海星女子学院マリア	1	神戸海星女子学院マリア	1		
					西宮共同	1				
児童発達支援事業所	あーも	1	さくらっこ園	1			おひさまサンサン	1	Amie smile	1
							さくらっこ園	1		
転居										
							2			
計		24		21		19		21		17

## キ 療育公開

市内の幼稚園や保育所、通所支援事業所等、わかば園の園児と関わりのある関係諸機関の職員に対して、療育公開を行っています。

わかば園の現状や日常の療育の様子を見てもらうことで、わかば園についての理解を深めて頂きながら、関係諸機関との連携をはかっています。

### <療育公開実績>

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	2回	2回	—	—	15回	14回
延べ参加人数	78人	80人	—	—	149人	157人

## 5 発達支援

取り組み内容	対象	概要	利用実績(前年度)
親子療育教室	通園療育を行っていない0～3歳児	診察後に親子で遊びながら子供の発達を促し、保護者にとっては子供の関わり方を具体的に学びながら子育てを支援していくことを目的としています。 親子で楽しくいろいろな遊びをしながら、コミュニケーションを深めていきます。 子育て相談や情報提供などを行うなど、同じ年頃の子供を持つお母さん同士の交流の場としています。	在籍実人数計 36人 (38人) 保育日数計 93日 (76日) 延べ保育日数計 607日 (315日) ※親子療育教室の実績を合計
個別保育	満8ヶ月に満たない子供や、集団保育が困難な子供	対象の子供に対して、個別保育を提供しています。 保護者の不安をやわらげ、集団保育に繋がります。	計31回 (16回)
体験保育	通園や親子療育教室に入る予定の子供	通園療育や親子療育教室に入るにあたり、該当クラスの様子や生活の流れを知ってもらい、利用児にとっての必要性を確認してもらうことを目的に実施します。	計38回 (61回)
ほっこり広場	療育待機中の子供	こども未来センターの相談を受けられた後、療育につながるまでの間の待機期間に、発達の遅れを疑う子供と支援が必要な保護者を対象に行う保育です。	延べ出席人数 計71人 (71人)
保育所等訪問支援事業	保育所、幼稚園、小学校などに在籍している障害のある児童	スタッフが保育所・幼稚園・学校等に訪問し、子供が園や学校での生活を楽しく送れるように、個々の特性に配慮し、集団生活における工夫やアドバイスを先生や保護者に行います。	計154件 (248件)

### (1) 親子療育教室

通園療育を行っていない0～3歳児を対象に親子教室（集団保育）を実施しています。

診察後に親子で遊びながら子供の発達を促し、保護者にとっては子供の関わり方を具体的に学びながら子育てを支援していくことを目的としています。

また、満8ヶ月に満たない子供や、集団保育が困難な子供には個別保育を実施しています。

(本事業は「在宅支援外来療育等指導事業」として実施)。

※親子療育教室のクラス編成は、年度により変更になる場合があります。

令和5年度 クラス編成					令和5年度実績		
クラス名	対象年齢	時間	回数	1クール回数	実人数	保育日数	延べ保育日数
わくわく	2・3歳児	9:20～10:20	週1回	16回	18	47	240
ありんこ	0・1歳児	9:20～10:00	月2回	—	20	46	367
つばみ	1歳児～	9:45～10:25	月2回	—	0	0	0
計					38	93	607

## ア わくわく（2～3歳児の保護者参加によるグループ保育）

【目的】 親子で楽しく遊ぶことにより、コミュニケーションを深めながら色々な遊びを経験します。また、子育て相談や情報提供を行なうなど、同じ年頃の子供を持つお母さん同士の交流の場としています。

【回数】 週1回 9時20分～10時20分 1クール16回（概ね3ヶ月間）

【対象】 2・3歳児

### <わくわく参加状況>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和3年度	延べ在籍人数	6	12	12	11	17	6	6	12	12	6	6	0	106
	保育日数	3	7	9	8	7	4	5	9	4	4	4	0	64
	延べ保育日数	14	40	44	40	31	18	27	43	21	16	16	0	310
令和4年度	延べ在籍人数	0	6	6	6	6	12	7	13	11	11	6	0	84
	保育日数	0	3	4	2	4	7	4	9	6	5	4	0	48
	延べ保育日数	0	11	20	10	12	29	19	25	23	15	13	0	177
令和5年度	延べ在籍人数	6	6	8	8	8	9	10	12	7	5	5	5	90
	保育日数	4	4	4	4	3	4	4	5	3	4	4	4	47
	延べ保育日数	17	19	23	21	17	22	19	35	15	22	14	16	240

## イ ありんこ（0～1歳児の保護者参加による、グループ保育）

【目的】 小さな集団の中で、親子で楽しく遊ぶことにより、母子関係を深め、子供の発達を促します。

【回数】 月2回（隔週） 9時20分～10時00分

【対象】 0・1歳児

### <ありんこ参加状況>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度	延べ在籍人数	5	6	6	6	9	9	11	14	17	20	20	22	145
	保育日数	2	2	2	1	1	2	2	2	4	4	4	4	30
	延べ保育日数	7	8	9	2	4	12	11	16	20	19	21	20	149
令和4年度	延べ在籍人数	5	5	5	7	7	9	12	13	14	14	16	17	124
	保育日数	2	1	2	2	1	2	2	2	4	3	3	4	28
	延べ保育日数	4	3	7	9	3	10	12	8	18	12	14	19	119
令和5年度	延べ在籍人数	8	9	10	10	11	12	13	16	17	18	20	22	166
	保育日数	4	4	4	4	3	4	4	5	3	4	4	3	46
	延べ保育日数	17	20	31	25	15	28	36	51	32	36	42	34	367

**ウ つぼみ（園児対象児ではあるが体力がなく、コンスタントに登園できない子供のクラス）**

【目的】 わかば園入園前に、親子遊びの経験や、個々にあわせて生活リズムを整えることを目的に小集団の保育を提供しています。保護者の子育て相談に応じ、保護者同士の交流場にもしています。

（園児に向け、コンスタントに来園し体力をつけ、色々な遊びを経験します。）

【回数】 月2回 9時45分～10時25分

【対象】 肢体不自由児 1歳児～

**<つぼみ参加状況>**

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和3年度	延べ在籍人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	保育日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延べ保育日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和4年度	延べ在籍人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	保育日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延べ保育日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和5年度	延べ在籍人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	保育日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延べ保育日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

**(2) 個別保育**

ありんこに入るまでの8ヶ月未満の子供について個別保育を提供しています。

保護者の不安をやわらげ、集団保育に繋げていきます。

**<個別保育参加状況>**

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	計
平成元年度	0	1	1	1	2	2	4	0	1	1	1	0	14
令和2年度	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	1	6
令和3年度	1	0	2	1	3	4	4	4	3	5	3	0	30
令和4年度	0	0	2	3	0	4	3	1	1	1	1	0	16
令和5年度	1	3	1	3	2	5	3	3	3	2	4	1	31

**(3) 体験保育**

通園療育「わかば園」に入るにあたり、該当クラスの様子や生活の流れを知ってもらい、利用児にとっての必要性を確認してもらうために、体験保育を行っています。

**<体験保育参加状況>**

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	計
平成元年度	0	0	0	0	1	15	11	22	2	1	4	0	56
令和2年度	0	0	3	9	5	24	15	18	3	3	2	4	86
令和3年度	1	4	4	3	2	7	14	11	5	2	2	4	59
令和4年度	0	0	3	3	8	9	11	7	5	8	4	3	61
令和5年度	4	0	2	0	1	6	10	11	2	0	2	0	38

#### (4) ぽかぽか広場（療育前親子教室）

こども未来センターの相談を受けられた後、療育開始までの間の待機期間に、発達の遅れを疑う子供と支援が必要な保護者を対象に行う教室です。

親子の様子を見ながら、必要な支援につなげていきます。

【目的】 療育開始までの待機期間において、保護者の不安を和らげ、集団で手遊びやふれあい遊び、紙芝居など遊びを通して親と子の関わりを深めることにより、子供の発達を促す。

【回数】 月2回 9時45分～10時45分

【対象】 0～5歳児で、こども未来センター診察待機親子

#### <ぽかぽか広場参加状況>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	計
令和3年度	延べ在籍人数	3	2	3	3	5	6	5	3	5	3	5	5	48
	保育日数	2	1	3	2	2	3	2	1	2	1	2	3	24
	延べ出席数	6	2	4	1	1	11	8	1	5	2	5	10	56
令和4年度	延べ在籍人数	3	4	5	5	5	4	5	5	1	3	3	3	46
	保育日数	1	1	3	2	2	2	2	2	2	1	2	3	23
	延べ出席数	3	4	14	8	8	4	8	7	2	3	4	6	71
令和5年度	延べ在籍人数	5	6	6	7	7	9	8	9	7	10	11	11	96
	保育日数	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	21
	延べ出席数	2	3	6	4	2	7	9	7	5	5	11	10	71

#### (5) 保育所等訪問支援事業

保育所、幼稚園、小学校などに在籍している障害のある児童を対象に、本人に対する支援（集団生活適応のための訓練等）、訪問先施設のスタッフに対する支援（支援方法等の指導等）を行います。（有料。世帯の所得に応じた負担）

#### <保育所等訪問支援事業>

		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
保育所等訪問支援	契約者数	2	5	13	10	11	18	9
	支援回数(*1)	4	11	11	27	32	124	76
	対応件数(*2)	14	26	33	47	64	248	154

(\*1) 支援回数とは、訪問により支援を行った回数

(\*2) 対応件数とは、アセスメントや保護者との面談及び報告の対応件数

#### ※わかば園卒園児への支援

わかば園を卒園した園児に対しては、地域の所属先（幼稚園・保育所等）を訪問し、地域での集団生活の状況や困り感を確認し、必要な支援方法の提案などを行っています。

（「わかば園卒園児アウトリーチ」として「7 学校・幼稚園・保育所との連携・支援」に記載。）

## 6 スクーリングサポート

不登校児童生徒や学校生活で配慮を必要としている児童生徒に対して、きめ細かな支援を行い、社会的自立に向けたさまざまな支援を行います。

取り組み内容		概要	利用実績(前年度)
不登校児童生徒支援	あすなる みらい	あすなる みらいは、長期欠席をしている不登校の小学校・中学校・義務教育学校の児童生徒を対象に、学習等の援助を行いながら、社会的自立を目標に運営している教室です。	児童生徒数 (体験も含む) 36人 (37人)
		あすなる みらいでは、単に学習の援助だけでなく、通ってくる子どもたちの力を広く育むために、こども未来センターのさまざまなスタッフが連携して、支援等にあたります。	登校日数 145日 (142日)
		あすなる みらいでは、児童・生徒ひとりひとりの状況にあわせ、学校や保護者と相談しながら、支援を行い、社会的自立をめざして学習支援や心理支援を行います。	

### (1) あすなる みらい

通級児童生徒一人ひとりの集団への適応力を高めることで、当該児童生徒が社会的自立を果たすことを目的としています。そのため、保護者会を開催する等、保護者や学校と綿密に連携を図っています。

あすなる みらいの通級日は月曜日から木曜日で、人とのふれあいを通して、生きる力をはぐくむことを目標に諸活動を実施しています。

#### 【主な活動内容】

マイスタディタイム 交流 セレクトタイム

令和5年度 あすなる みらい 週自程表

		月	火	水	木	金	
午前	1	9:30~9:35	はじめの会				マイトライダー
	2	9:35~10:20	マイスタディタイム				
		10:20~10:35	休み時間				
	3	10:35~11:20	マイスタディタイム	交流(ソーシャルスキル)	マイスタディタイム	セレクトタイム	
	4	11:20~11:30	おわりの会				

		月	火	水	木	金	
午後	1	13:00~13:05	はじめの会				マイトライダー
	2	13:05~13:50	マイスタディタイム				
		13:50~14:05	休み時間				
	3	14:05~14:50	マイスタディタイム	交流(ソーシャルスキル)	マイスタディタイム	セレクトタイム	
	4	14:50~15:00	おわりの会				

＜あすなろ 미래の児童生徒数＞

	R1	R2	R3	R4	R5
児童生徒数	36	40	36	37	36

令和5年度内訳	
小学生	8
中学1年生	7
中学2年生	12
中学3年生	9
計	36

## 7 学校・幼稚園・保育所との連携・支援

さまざまな課題のある子供を支援するうえで、子供をとりまく環境や状況を整え、関係者が連携することは大きな意味を持っています。こども未来センターは、子供が普段の生活で最も長い時間を過ごす学校・幼稚園・保育所等と連携し、必要な支援を行います。

取り組み内容	概要	利用実績(前年度)
相談 電話等による相談	<p>学校園、保育所、関係機関からの相談に対して、内容を伺い今後の対策を共に考えます。必要に応じてその後面談等行いながらニーズの整理についてお手伝いします。</p> <p>その上で支援ツールについて紹介したり、当センター内外と協働しながら支援策について提案しています。</p>	
学校園支援 アウトリーチ	<p>学校からの要請はもとより定期的に学校園諸施設を訪問(アウトリーチ)し、生育環境や発達障害などが原因で集団生活に不応を起している幼児児童生徒に関する事、その他障害の状況に応じた生活改善や克服に関する事など、心理療法士がその対応や支援方法について提案し、学校園支援体制に参画しています。</p> <p>平成29年度からは公私立保育所や私立幼稚園、障害児通所支援事業所、平成30年度からは留守家庭児童育成センターにも対象を広げています。</p>	<p>総派遣回数 261回(272回)</p> <p>校種別派遣回数</p> <p>保育所 31回(31回)</p> <p>幼稚園 60回(85回)</p> <p>小学校 85回(81回)</p> <p>中学校 25回(21回)</p> <p>高等学校 36回(39回)</p> <p>あゆみ面接、あゆみ審査、関係機関等 23回(15回)</p> <p>育成センター 0回(0回)</p> <p>研修講師 1回(0回)</p>
西宮専門家チーム(*) の派遣	<p>発達障害等による生活や学習上の困難を改善または克服するための教育的支援を求めている学校園及び保育所等、あるいは幼児児童生徒及びその保護者に対して、早期の実態把握や望ましい対応について専門的な意見を示してもらいます。</p>	<p>総派遣回数 152回(197回)</p> <p>校種別派遣回数</p> <p>幼稚園 0回(4回)</p> <p>小学校 122回(168回)</p> <p>中学校 17回(17回)</p> <p>高等学校 0回(0回)</p> <p>研修等 13回(8回)</p>
アウトリーチ 巡回相談員 (特別支援学校専任 コーディネーター) の派遣調整	<p>特別支援学校は、地域の特別支援教育推進の中核的な役割(センター的機能)が求められており、専任のコーディネーターが配置されています。</p> <p>高い専門性のある特別支援学校専任コーディネーターと連携を図り、必要に応じて支援を求めている学校の実情を伝えるとともに、派遣の依頼をしています。</p>	<p>総派遣回数 15回(22回)</p> <p>校種別派遣回数</p> <p>幼稚園 0回(0回)</p> <p>小学校 9回(17回)</p> <p>中学校 2回(2回)</p> <p>アイ・あいスクール 4回(3回)</p>
セラピスト訪問	<p>センター診療所利用児が通う保育所、幼稚園、学校、施設へ診療所のスタッフが訪問し、集団の様子を観察し、子供の特性を踏まえた支援方法を提案しています。</p>	<p>総派遣回数 68回(70回)</p> <p>校種別派遣回数</p> <p>保育所 19回(9回)</p> <p>幼稚園 8回(19回)</p> <p>小学校 36回(39回)</p> <p>中学校 1回(3回)</p> <p>高等学校 0回(0回)</p> <p>その他 4回(0回)</p>
理学療法士(PT)派遣	<p>特別支援学校に PT が定期的に出向き、個別の児童に対してではなく学校全体を対象に、PTとしての支援を行う。</p>	<p>総派遣回数 5回(0回)</p> <p>※R5より実施</p>

取り組み内容	概要	利用実績(前年度)	
本人中心支援会議への出席	障害福祉サービス等を利用する際に作成する「本人中心支援計画」作成の会議に診療所のスタッフが出席し、本人(保護者)、関係施設(学校園所等)の関係者、担当相談支援専門員と協議します。	19回(17回)	
アウトリーチ			
わかば園卒園児アウトリーチ	わかば園を卒退園した園児が、地域の所属先(幼稚園・保育所等)での集団生活へ円滑に移行できるよう、所属先の状況や困り感を確認し、必要な支援方法の提案などを行います。	総派遣回数 6回(3回) 幼稚園 0回(2回) 保育所 0回(0回) 小学校 4回(0回) その他 2回(1回)	
Dr. 支援会議	主に学齢期の児童生徒に対して、医療と教育が連携し、発達に沿った支援を検討します。学校関係者とこども未来センターの医師・関係職員が参加します。	総会議回数 47回(52回) 校種別会議回数 保育所 0回(0回) 幼稚園 0回(0回) 小学校 33回(40回) 中学校 13回(8回) 高校 1回(4回)	
セラピー見学	PT・OT・ST見学	学校園所等の担当者に担当児童の療育の様子を見学してもらい、セラピストと担当者間で情報共有を行います。	183回 (154回)
判定支援	あゆみ面接	現在保育所に通所していたり、今後入所予定の乳幼児のうち、加配保育士による支援が必要かどうかの判定支援をするための医師を派遣しています。	

\*)西宮専門家チーム:医学、心理、教育等の各分野において、発達障害等に関する専門的知識を有する医学関係者、心理関係者、教育関係者により構成しています。

### <学校・幼稚園・保育所等への支援>

	R1	R2	R3	R4	R5
学校園支援アウトリーチ	252回	240回	267回	272回	261回
西宮専門家チームの派遣	196回	170回	161回	197回	152回
巡回相談員の派遣調整	31回	45回	21回	22回	15回
セラピスト訪問	101回	50回	62回	70回	68回
理学療法士(PT)派遣 (R5より実施)	—	—	—	—	5回
わかば園卒園児アウトリーチ	14回	5回	0回	3回	6回
Dr. 支援会議	100回	54回	50回	52回	47回
PT・OT・ST見学	165回	164回	173回	154回	183回
保育所等訪問支援事業	11回	27回	32回	124回	76回

## 8 地域との連携

さまざまな課題のある子供に対して、より広い協力や連携が必要な場合に、関係機関などとの連携をとりながら支援を行います。また、早期の気づき・発見を早期の支援につなげていけるよう、ネットワーク作りを行っています。

種別	区分	概要
西宮市地域 自立支援協議会 (みやっこ会議)	こども部会	事務局として運営を担っています。 ・部会: 毎月第4火曜日 ・事務局会議: 毎月第2金曜日 ・児童フォーラム: 「みやっこ会議兼特別支援教育ネットワーク会議」
	あんしん相談 窓口連絡会	相談支援専門員等が参加しています。 ・部会: 毎月第2火曜日 ・事務局会議: 毎月第4水曜日
	運営委員会	・運営委員会: 奇数月第1木曜日
関係機関 ・団体等	障害者総合相談 支援センター にしのみや	みやっこ会議や障害児相談支援・計画相談支援等の相談支援事業の他、当センターの利用者が成人に向うに当たり、つなぎ先としても連携しています。
	地域保健課 (西宮市保健所)	乳幼児健康診査等を契機に支援の必要な子供に関して当センターへの紹介元として、及びその後の支援についても連携しています。 また、乳幼児発達相談に、医師・理学療法士・言語聴覚士・心理療法士が出務し連携しています。
	子育て総合 センター	子育て一般の広い相談の中で必要に応じて当センターへのつなぎや「ひょうごっ子悩み相談センター」で実施する教育相談を共に担当して連携しています。
所属関係 団体等	西宮市通所支援事 業所連絡会	西宮市内事業所(児童発達支援事業所・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業所・相談支援事業所)の定例会にわかば園児童発達支援管理責任者や地域学校支援課の職員が参加し連携しています。
	近畿肢体不自由児 療育施設 連絡協議会 (近肢連)	近畿地区の肢体不自由児等の発達支援を行う施設・事業所で構成されており、施設・事業所間や関係機関との連絡・調整、情報交換をはじめ、障害のある子供たちの医療・保健・福祉に関する調査研究などの活動を行っています。 ①療育研究大会 ②部会研修(看護部会、給食部会、 理学療法・作業療法部会、言語部会、 心理相談部会、保育部会)
	西宮市要保護児童 対策協議会	虐待を受けている児童を始めとする要保護児童の早期発見や適切な保護、要支援児童や特定妊婦への適切な支援を、関係する機関の連携により組織的・効果的に実施するために設置している西宮市要保護児童対策協議会(通称みやっこ安心ネット)の実務担当者会議に相談員が出席するなど連携を図っています。

## 9 講座・研修・人材育成

保護者や関係者・教職員等に対するさまざまな講座や研修等のプログラムを実施しています。また、医師・セラピスト・保育士などの施設実習の受入を行い、人材育成に協力しています。

取り組み内容	概要	利用実績(前年度)
一般向け 市民講演会	発達障害をもつ子供の世界観や関わり方を学び、発達障害の特性等を正しく理解することを目的として実施しています。 【講師】外部専門家 【対象】西宮市民	年1回開催 (2月1日) 参加者 88人
特別支援教育 コーディネーター スキルアップ研修	子供の発達を医療、心理、福祉、教育など多様な観点からアセスメントできる力を養うとともに、具体的な支援方法の提案や組織的対応のコーディネートなど、教育現場における子供の発達支援の指導的立場となる教職員を育成することを目的としています 【講師】外部専門家 【対象】西宮市立小中学校教員	参加者 30人(24人)
出張セミナー	医師が授業の見学等により課題を確認したうえで、教員を対象に講演やグループディスカッションの手法を用いて支援スキルを高めることを目的とします。 【講師】こども未来センター医師 【対象】学校教員	実施校 7校 延べ15回実施 ※R5から実施 講演会のみを含む
子供支援講演会	早期気づき・早期支援の重要性や具体的な支援方法について、また、組織的支援体制のあり方など、子どもの主な生活場所の支援の充実を図る 【講師】外部専門家 【対象】児童発達支援・放課後等デイサービス事業所、学校園職員等、市役所職員	年1回 動画研修 (11月14日～2月16日) 参加者 534人
支援者向け研修	発達上に課題のある子供への支援方法を学ぶ。 【講師】外部専門家 【対象】児童発達支援・放課後等デイサービス事業所、地域保健課、保育所事業課、こども未来センター職員	年1回 動画研修 (12月11日～2月26日) 参加者 236人
一般・専門職 向け 福祉機器展	主にこども未来センターを利用している発達障害児・肢体不自由児とその家族、および関係機関職員を対象として、日々の困りごとを手助けする道具等を実際に手に取っていただける展示会を開催。【発達障がい編】と【身体障がい編】を開催。	年2回開催 【発達障がい編】 令和5年6月23、24日 参加者 127人 【身体障がい編】 令和5年9月2日 参加者 106人

## (1) 一般向け

### 市民講演会

発達障害をもつ子供についての一般市民への理解促進を目的として、市民講演会を実施しています。

令和5年度は2月1日(木)に福井大学子どものこころの発達研究センターの杉山登志郎氏を講師に招いて「発達障害と不登校:不登校が変わってきた」をテーマに対面式で開催しました。参加者は88人でした。

## (2) 専門職向け

### ア 特別支援教育コーディネータースキルアップ研修

【講師】 片山 泰一 氏 (子どもの発達科学研究所代表理事)  
和久田 学 氏 (子どもの発達科学研究所主席研究員)  
大須賀 優子 氏 (子どもの発達科学研究所主任研究員)

【対象】 西宮市立幼稚園、小中学校教員 30名

【内容】 社会心理、生命科学、教育支援 21時間

回	分類	タイトル	内容	時間
1	教育支援	子ども理解	現状理解、発達障がい正しい理解、子ども虐待	1.5
	教育支援	行動支援	なぜ子どもたちは不適応行動をするのか、行動を捉える、応用行動分析、環境設定	1.5
2	生命科学	発達障がいと脳	発達障がいを脳機能から捉える	1.5
	生命科学	子ども虐待と脳	子ども虐待の深刻な影響、子ども虐待への支援	1.5
3	社会心理	インクルーシブ教育と合理的配慮	典型例の研究、障害者差別解消法とインクルーシブ教育、合理的配慮とは	1.5
	社会心理	家庭支援	保護者面談(演習)、保護者理解、保護者支援のシステム、インテーク(演習)、結果の提示、家庭支援	1.5
4	教育支援	事例検討1	支援のデザイン、支援のヒント、事例検討の必要性、事例検討の目的と枠組み	1.5
	教育支援	事例検討2	正しいアセスメントのために、モデルで理解する(冰山モデル)、事例検討演習、コンサルテーションの前に	1.5
5	教育支援	巡回相談	各学校の実際を視察(演習)	2
6	教育支援	巡回相談	各学校の実際を視察(演習)	2
7	教育支援	巡回相談	各学校の実際を視察(演習)	2
8	教育支援	脳機能から考える行動支援・学習支援	脳機能から学習・行動を捉える、実行機能と学習・行動、記憶と学習・行動	1.5
	社会心理	特別支援教育のシステム	特別支援教育のシステム化、学びを具体的に生かすために、支援コーディネーターの役割	1.5

### イ 出張セミナー

医師が授業の見学等により課題を確認したうえで、教員を対象に講演やグループディスカッションの手法を用いて支援スキルを高めることを目的とします。

令和5年度から年数回の学校訪問と職員研修会を基本とした2年間の正式なプログラムとして、市内の小学校2校を対象に開始しました。

【講師】 こども未来センター医師

【対象】 学校教員

※ 令和5年度はプログラム以外にも要望のあった小学校に対し研修(講演)を行ったため、小学校7校に延べ15回実施しています。

### (3) 教職員研修企画

特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任、そのほか特別支援に関わる教職員に向けた研修を特別支援教育課と連携し、計画・実施しています。

研修名	対象	延べ人数	回数
特別支援教育コーディネーター研修	幼小中高義特のコーディネーター	168	3
特別支援学級担任研修	小中義の特別支援学級担任	181	種別ごと 各1回
特別支援教育支援員研修	小中義の特別支援教育支援員	170	3
介助支援員研修	小中義の介助支援員	112	3
保育支援員研修	幼の保育支援員	73	2
特別支援教育にかかる情報化研修	小中義の教職員	16	1
情報保障研修	難聴の子供に関わりのある教職員	21	1

※その他、特別支援学校主催の研修や県教委主催の研修についても紹介とりまとめをしています。

### (4) 実習生受入

実習内容	学校名	人数	時期
PT 臨床実習	畿央大学	1	令和5年6月～7月
	平成リハビリテーション専門学校	1	令和5年8月
	神戸学院大学	2	令和6年1月～2月
	大阪人間科学大学	1	令和6年2月
OT 臨床実習	藍野大学	1	令和5年9月～10月
	関西医科大学	1	令和5年9月
	大阪公立大学	1	令和5年9月
	大阪人間科学大学	1	令和5年11月～12月
	神戸医療福祉専門学校三田校	1	令和6年1月～2月
看護師実習	西神看護専門学校	7	令和5年6月
医師実習	兵庫医科大学	2	令和5年11月
保育実習	甲南女子大学	1	令和5年7月～8月
	武庫川女子大学	1	令和5年8月～9月
	甲子園短期大学	1	令和6年2月
社会福祉士実習	神戸女子大学	1	令和5年6月 令和5年10月～11月
	神戸学院大学	1	令和5年9月～11月
公認心理師実習	武庫川女子大学大学院	2	令和5年4月～7月 令和5年9月～12月
	神戸女学院大学大学院	2	令和5年4月～7月、 令和5年9月～12月
	神戸女学院大学	9	令和5年9月
<b>&lt;合計&gt;</b>		<b>37</b>	

## IV 西宮市立北山学園(福祉型児童発達支援センター)

### 1 北山学園の概要

就学前の知的障害児を対象とし、遊びや活動を通じて社会に適応できるよう個別的・集団的に訓練を行い、障害児の生活を支援することを目的として、昭和44年8月に知的障害児通園施設として設立され、平成18年度からは、指定管理者社会福祉法人甲山福祉センターが管理・運営しています。

その後、児童福祉法に基づき、平成24年4月に児童発達支援センター(福祉型)に移行し、子供が日々の生活により適応できるようにしていくとともに、子供への理解・受容・成長につながる保護者支援や、必要な地域支援等を行うことにより、子供自身が自分らしい豊かな人生を実現することをめざしています。(平成27年度より、障害福祉課から、こども未来センターの所管に移行)

#### <学園の方針>

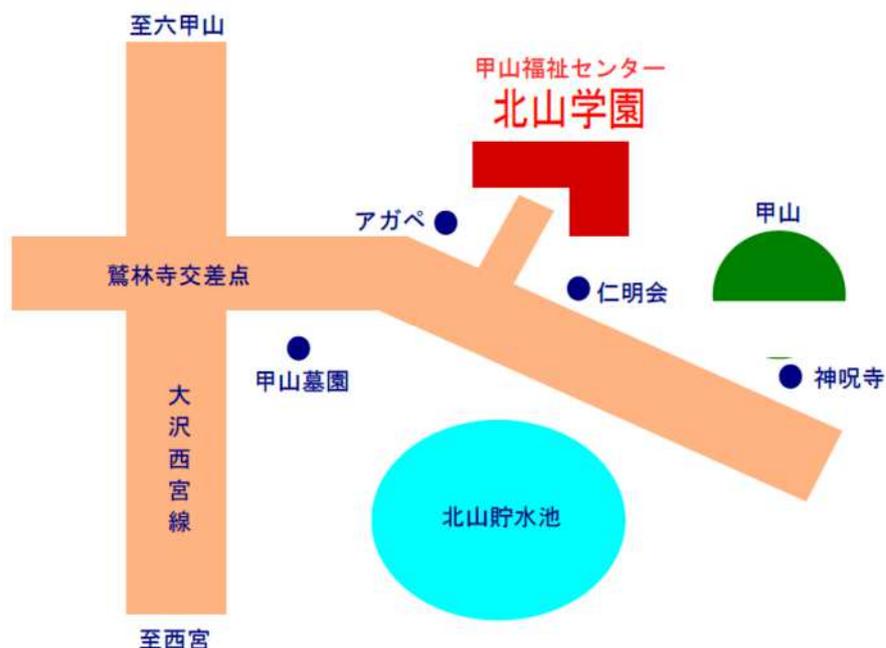
保護者と一緒に子どもたちの発達を支援します。

- ①豊かな自然環境を生かし、子どもたちがのびのびたくましく育つことを目指します。
- ②ひとりひとりにきめ細かな療育活動を提供します。
- ③ご家族が安心して子育てできるようにサポートします。

#### (1) 保育時間等

登園日	月曜日～金曜日(夏・冬・春休みあり)
休園日	土曜日、日曜日、祝祭日、お盆、年末年始、その他園が定めた日
保育時間	午前9時40分～午後2時30分
通園方法	通園バス2コース 北部地域はタクシー通園
対象児	3歳児から就学前の知的・発達障害児

#### (2) アクセス



### (3) 施設概要

所在地	〒662-0011 西宮市甲山町 53 番地
電話・FAX	0798-71-8027・0798-71-9114
竣工年月日	昭和 44 (1969) 年 8 月 1 日
開園年月日	昭和 44 (1969) 年 8 月 11 日
構造	鉄筋コンクリート造 2階建て
敷地面積	48,391.80 m <sup>2</sup>
専用床面積	694.42 m <sup>2</sup>
指定管理者	社会福祉法人 甲山福祉センター
代表者	理事長 服部 英司
施設長(園長)	田中 隆雄

### (4) 沿革

1969 (S44)年	8月	定員30名で北山学園を開園
1970 (S45)年	8月	学園プール設置
1993 (H 5)年	4月	保育時間の延長
1995 (H 7)年	1月	震災後、地域保育を実施
1996 (H 8)年	4月	週5日登園になる
1997 (H 9)年		総合木製遊具の寄付を受ける(中央競馬馬主社会福祉団体)
1998 (H10)年	8月	バス車庫棟等増改築工事(中央競馬馬主社会福祉財団)
2000 (H12)年	4月	外来保育「ぼっぼくらぶ」を開始
2002 (H14)年	8月	夏期に甲山自然の家で1泊2日宿泊キャンプを開始
2004 (H16)年	4月	学園で園児分の給食を調理、単独厨房の開始
2006 (H18)年	3月	学園バス購入(学園キャラクターやバスイラストに絵本作家のたかいよしかず氏のイラスト)
2008 (H20)年	4月	発達検査を西宮すなご医療福祉センター(旧砂子療育園)臨床心理士により実施
2009 (H21)年	4月	通園バス2便と北部地域タクシーでの送迎開始
2010 (H22)年	4月	定員30名を定数の弾力化で33名受入
2010 (H22)年	5月	園庭日除けネット設置
2010 (H22)年	6月	気管切開処置児受け入れの為、パート看護師採用
2010 (H22)年	10月	水曜日保育時間を45分間延長
2011 (H23)年	5月	山口公民館と塩瀬公民館で親子教室を開始、保育時間を15分間延長
2011 (H23)年	6月	プール日除けネット設置
2012 (H24)年	4月	「知的障害児通園施設北山学園」より、「児童発達支援センター北山学園」に移行
2015 (H27)年	2月	障害児相談支援事業開始
2015 (H27)年	4月	保育所等訪問支援事業開始

### (5) 事業実績

#### ①通園療育

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
通園在籍者数(人)	33	33	32	33	32	31	30	30	30	30
保育回数(延べ)	6,775	7,092	6,791	7,064	6,759	6,617	6,087	5,989	6,406	6,306

②保育所等訪問支援

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
契約者数（人）	－	4	1	2	4	2	1	1	2	3
支援回数（*1）	－	8	1	3	6	5	1	2	4	7

（\*1）支援回数とは、訪問により支援を行った回数

③障害児相談支援

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
新規作成（件）	12	51	32	15	18	15	7	1	2	2
モニタリング件）	－	57	145	114	134	155	162	113	101	106